第 19 回県政知事懇談

湯﨑英彦の地域の宝
チャレンジ・トーク

と　き　平成 25 年 5 月 25 日（土）
ところ　川・森・文化・交流センター１階
　　やまびこホール　〈安芸太田町〉

広　　島　　県

目　　次　　頁

開　　会 …… 1

知事挨拶 …… 1

事例発表者紹介 …… 2

事例発表① …… 3

事例発表② …… 9

事例発表③ ……13

事例発表④ ……18

閉　　会 ……21

開　　会

（司会（槙埜））

皆さん，こんにちは。（「こんにちは」の声あり）大変長らくお待たせいたしました。

ただ今から「湯﨑英彦の地域の宝チャレンジトーク」を開催いたします。

私は，広島県広報課の槙埜と申します。

本日は，チャレンジに向けて，元気の出る楽しい会にしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

知事挨拶

（司　会）

それでははじめに，湯﨑英彦広島県知事がご挨拶を申し上げます。

（知事（湯﨑））

皆さん，おはようございます。（「おはようございます」の声あり）今日は，土曜日の朝早くから本当にたくさんの皆様に集まりいただきまして，ありがとうございます。

僕は，声がこんな感じで申し訳ありません。ここ何日かこんな声で，体調は悪くないんですけれども，なぜかここだけやられておりまして，大変申し訳ありません。

この県政知事懇談会ですが，安芸太田にも何回かお邪魔させていただき，何回かというか，安芸太田にお邪魔させていただくのは今回が２回目になります。最初は平成 22 年７月ですから，もう３年近く前になろうかと思います。そのときにこちらへお邪魔させていただき，10 名ぐらいの方にご参加いただいて皆さんとディスカッションさせていただきました。そのときには，加計町の街ぐるみ博物館とか，あるいはＹＵＮ（ゆん）プロジェクトとかを訪問させていただきました。

２回目は，実は山県と安芸高田と一緒に，場所は北広島でさせていただきまして，そのときにも安芸太田から発表者の方にご参加いただいて，地域の挑戦について発表いただきました。

今３巡目に入っているところで，また広島県内各地，全 23 市町を回らせていただいております。

これまで意見発表をいただいた方が 425 人になっておりまして，こういう形でご参加いただいている皆さんが 5,500 人を超えております。これまでずっと申し上げてきたのですけれども，一つ一つのご意見はもちろん重要なのですが，味噌樽に詰めて発酵させると，県政のいい調味料になるということで，今，本当にいい味噌ができていると思っています。皆様の

ご協力でこうしてできていることを大変うれしく思います。

今日は，地域でいろいろな挑戦をされている方の発表を聞くという形で進めさせていただきたいと思います。各地域，いろいろな方がいらっしゃって，本当にすばらしい活動をされています。今日お集まりの皆様も元気をもらって帰ることができるのではないかと思いますので，おつき合いのほどよろしくお願いいたします。

それから，今回の開催に当たりましては，小坂町長をはじめとして，安芸太田町の役場の皆様に本当にお世話になっております。この場をおかりしてお礼を申し上げたいと思います。

それでは，これから 70 分ほどになりますけれども，どうぞ皆さんよろしくお願いいたします。ありがとうございます。（拍手）

（司　会）

湯﨑知事，ありがとうございました。湯﨑知事，壇上のお席にお移りください。

事例発表者紹介

（司　会）

それでは，本日の事例発表者の皆さんをご紹介いたします。発表者の皆さんは檀上のほうにお上がりください。順にご紹介させていただきます。

まず，安芸太田町の地域資源の発掘・開発を通じて，地域おこし支援に取り組まれている地域おこし協力隊の奥田圭佑さんです。（拍手）

「安芸太田元気森もり推進隊」の一員として，2013 フラワーフェスティバルで「神楽よさこい」を披露し，元気な町をＰＲされた，会社員の佐々木小百合さんです。（拍手）

地元高校生として安芸太田町を活性化するために，自分たちができることに取り組まれている県立加計高校３年生の島津亮太さんです。（拍手）

将来，家業を継ぎ，立派な職人になりたいという思いを持ち，そのために日々勉学に励んでおられる町立戸河内中学校３年生の横畠竜さんです。（拍手）

どうもありがとうございました。事例発表者の皆様はお席のほうにお戻りください。

ここからは湯﨑知事にコーディネーターをお願いしたいと思います。それでは，湯﨑知事，どうぞよろしくお願いいたします。

事例発表

事例発表①

（知　事）

ありがとうございます。それでは，本日事例発表していただきます４組の皆さん，先ほど申し上げたようにそれぞれの地域や職場あるいは学校で，積極的に活動して挑戦を続けていらっしゃる方々です。

はじめに発表いただきますのは，安芸太田町地域おこし協力隊員の奥田圭佑さんです。

改めて奥田さんをご紹介させていただきますと，奥田さんは大阪府のご出身で，昨年の 11 月から安芸太田町に移住されたということです。地域おこし協力隊として，吉和郷地区で地域おこしの活動をされているということです。

現在は農家レストランの立ち上げに取り組んでいらっしゃって，食材確保のために遊休農地を復旧し，野菜の作付けを行うなど，地域の宝を生かした地域おこしを目指して取り組んでおられます。

今日の発表のテーマは，「『人情・おもてなしの心』というすばらしい強みを売りにして！」です。それでは，奥田さん，よろしくお願いします。

（事例発表者（奥田））

皆さん，おはようございます。（「おはようございます」の声あり）（拍手）

安芸太田町地域おこし協力隊の奥田圭佑でございます。常日ごろ皆様におかれましては，私たち地域おこし協力隊隊員の活動にご支援，ご賛同くださいまして，大変感謝いたしております。隊員を代表いたしまして厚くお礼申し上げます。

ちょっと固いですね。湯﨑知事がお越しですので，私も含めて，皆さんも緊張されていると思います。ちょっとリラックスして頑張っていきましょう。よろしくお願いします。

そして，湯﨑知事，はじめまして。ようこそ安芸太田町へ。昨日も夕方テレビで拝見させていただきました。非常に活動を盛んにされていて，大変お疲れだと思いますので，この後，しっかりセラピーでマイナスイオンを浴びて，リフレッシュして帰っていただけたらと思っております。

では，ここであらかじめお詫びを申し上げます。こちらの資料を見ながらお話しさせていただきたいと思っております。というのも，普段からべらべらしゃべる私ですので，とてもじゃないですけれども 10 分では収まりません。ですので，これを活用してなんとか 10 分前後で収めたいと思っております。

それでは，本題に入る前に，私の担当地域であります３地域をご紹介いたします。

まず，戸河内の吉和郷集落です。こちらは，廿日市の吉和とよく混同されるのですけれど

も，吉和郷で，吉和とはまた別物であります。こちらで主に活動させていただいております。

こちらは３月３日の集落の輪投げ大会です。非常に皆さんいい顔をされております。

続いて，那須集落です。戸河内吉和郷のさらに奥にあります。こちらは，よく言われるのは，限界集落です。普段は，ごらんのとおり６世帯，８名しか住んでおりません。こちらで去年，私が料理をしまして食事会を開催しました。クリスマスということもありましたので，ちょっとクリスマスケーキっぽいものをつくりまして，ご年配の方が多かったので，甘いものは苦手かなと思いつつも持って行ったら，きれいになくなりました。

さらに，こちらの那須で，今，私は米づくりをさせていただいております。厳密にいえば，農地法などがあるのですけれども，そこはちょっと目をつぶっていただいて，５月３日に田植えを開催しました。現状，すくすくと育っております。

そして三つ目，打梨集落です。これは，吉和郷から那須に行くところに吉和に抜ける県道がありますが，県道分かれを左手に分かれていくと，この打梨集落があります。こちらも那須とほぼ同じく，現状では４世帯，６名の方しかいらっしゃいません。景色は非常にいいですけれども，なかなか厳しい現状に置かれているこの３地域です。

では，なぜこの３地域なのか。ときは昭和 43 年，吉和郷にダム建設構想が持ち上がりました。それを機に吉和郷，打梨，那須，この３集落でダム対策協議会が結成されました。その後，幾多の紆余曲折があり現在に至るわけですが，残念ながら後から話が持ち上がりました温井ダムが先にできてしまいまして，現状，まだダムはできておりません。

平成 18 年に，ダム対策協議会の活動の延長の中でＹＵＮプロジェクト，アルファベットでＹＵＮ，吉和郷のＹ，打梨のＵ，那須のＮ，昔の「結」といいますか，田んぼの農繁期に手を貸し借りし合う「結」の意味もあります。このＹＵＮプロジェクトを立ち上げ，部落存続のために高齢化が進んでおりますこの３地域が手を取り合って，協力して数々の事業を行ってきました。例えば「ひまわりの里づくり」と銘打って，集落・景観の維持・保全のためにひまわりを栽培しました。ほかには，秋の大収穫祭，はたまた里山の手仕事展，この中で吉和郷の一大プロジェクトの「戸河内刳物」，今日も伝統工芸士がこの会場に来られています。さらには，「コウラ蓑」「つづら細工」などの体験，伝承を目的とした活動にも取り組んできました。

しかし，プロジェクト立ち上げから７年が過ぎ，打梨と那須の集落は，先ほども見ていただいたように非常に高齢化が進んでおります。そのために疲れが出て，現在ＹＵＮ事業というのは実質休業状態になります。その打梨，那須の２集落と比べて，まだ比較的若い吉和郷が，次の一手として打ったのが地域マスタープランにも掲げております「報恩講料理」，これを軸とした農家レストラン事業計画というのがあります。それに関しまして，私がこのまちに来たというのがそもそもの始まりであります。

では，いよいよここからは今日の本題であります地域の宝を発表してまいります。

数々の地域の宝，私の目から見ても，皆さんの目から見てもあります。まず写真の左上，

昨年末，地域でしめ縄をつくりました。その右隣，これが先ほどお話ししました県の伝統工芸でもあります戸河内刳物です。そして左下，津浪でのイベントですが，足こぎの餅つき機です。右下が雛祭り，すべて寄付されたものなのですけれども，こういった地域の宝・文化があります。

続きまして，「地域の宝 食べ物編」ということで，左上が地域マスタープランにもあります報恩講料理。そして右上が，これはおいしかったですね。那須で食べた鮎，天然ものです。これは非常に感動しました。５匹ぐらいいただきました。おいしかったです。つい最近もいただきました。そして，左下が，筒賀で男性料理ということで銘を打って，山菜を地域の男性陣が採ってきて，それをまた男性が天ぷらにする。そして，奥さんに食べてもらうという企画の中でつくった山菜料理です。そして右下，この子たちは地域の子ではありません。私の甥っ子，姪っ子です。こちらでこんにゃくづくりを教えていただきまして，実際にこんにゃく玉と白灰を分けていただいて，２月に帰省した際に大阪でつくってまいりました。

今，見ていただきましたこれらの宝も当然活用していくのですけれども，私が見た一番の強み・宝は，「人情・おもてなしの心」です。最近では，民泊の説明などでもよく聞くキーワードなのですけれども，今日は民泊の説明ではありませんので，よろしくお願いします。これについてちょっとお話しさせていただきます。

昨年 11 月に大阪からやってまいりました。都市部に住んでいると，どうしてもごみごみとした生活になりますので，人間らしい生活を求めて，ここ安芸太田町にやってきました。人間らしい生活とは何なのかと考えたときに，コミュニケーションのある生活なんですよ。すれ違えば，あいさつを交わす。ご近所さんへのお裾分け。はたまた，これも含めた他人への気遣い。こういったことがこの田舎には残っているんです。残念ながら，都市部ではコミュニケーションが薄れてきました。隣に誰が住んでいるかも分からない。すれ違っても全然あいさつしない。これが都市部の現状なんです。でも，このまちにはそういった人情が残っています。これが強みであり，これが売りになるんです。

続きまして，「おもてなしの心」についてお話しします。これは，ありがたいことに，特定の方だけではなく，大概のお家にお邪魔したらそうなのですけれども，「まあ，あがりんさい」「あがりんちゃい」と言って，お茶とかコーヒーの飲み物が出てくるんです。何も強要しているわけじゃないんですよ。くださいと言っているわけでもないです。自然と，コーヒー，お茶が出てくるんです。皆さんにとってこの当たり前の行為，これが実はおもてなしなんです。おもてなしを自然とされている。レストランとかホテルでは，お客様獲得のために「ウエルカムドリンク」，来ていただいたお客様に最初にサービスをする。こういう「ウエルカムドリンク」というサービスがあります。そういったところでは，わざわざ研修をするんです。従業員の研修をして，サービスを行う。本来ならば，わざわざそういった研修を持つことが，このまちには必要ないんです。皆さんに自然と備わっている。それが売りなんです。武器なんです。これを売っていきましょう。こういった普段の行いそのものが実は商品なんです。

この商品を強みにちょっと小銭を稼ごうじゃないかということで，吉和郷のレストラン事業ということです。地域の夢は，今もお話ししました農家レストラン経営です。非常に大きな夢であり，目標です。

中には無謀だという声も当然あります。私も前職は飲食店で働いていましたので，水商売の難しさというのは嫌というほど分かっています。ただ，やる前から諦めてどうするんだと。やって，万が一失敗しても，命までとられるわけではないですから，やりましょうよということを今日私は皆さんにお話ししようと出てきました。

諦める前に，まず行動。まず始めたのが，先ほどもご紹介いただきました遊休農地を貸していただき，野菜をつくる。当然，百姓は素人です。日々試行錯誤しながらやっております。ちなみに，昨日，朝，水やりに行ったとき虫に刺されました。こんなところをです。今朝起きてみたら，えらい腫れているんです。何でこんな日になるのかなと。せっかくの晴れ舞台の日なのに。普段は麦わら帽をかぶって，長靴を履いて活動している人間が，今日はちょっとおしゃれをする。なのに口は腫れている。こんなかっこわるい話はないです。これは余談です。

野菜は吉和郷でつくっております。お米は，先ほど見ていただきました那須でつくっております。それをもとに，地産地消につなげるべくレストラン事業に生かしていけたらと思っています。

人情・おもてなしの心が売りになるんですよ。それは分かった。でも，実際できるのかと。恐らくここの会場の方も思われているでしょう。ただ，過疎地と呼ばれる安芸太田町ですけれども，高速道路が非常に便利です。１時間圏内に，広島市，廿日市市，北広島町，この３地域だけでも住民は 130 万人いらっしゃいます。仮に，この 130 万人のうち１％でも，１％の方に来ていただければ１万 3000 人です。その方が，これも仮ですけれども，1,000 円使ってくれたとします。それだけで 1,300 万円このまちにお金がおりるんです。1,300 万ですよ。１％でいいんです。そう考えたら，決して無謀な話ではないと思いませんか。ね，林くん。

そうは言っても，正直大変ではあります。ただ，この地域の宝，先ほど自然は入れてなかったのですけれども，このまちには自然があります。三段峡，恐羅漢，すばらしい地域の宝，いや，広島の宝です。この宝を使って，何とか来ていただいたお客さんにお金を落としてもらおうと思っております。先ほどから申しておりますように，皆さんの人情，おもてなしの心，そして，私，大阪人特有の欲深さ，これをプラスして，今後とも引き続きやっていきたいと思います。

先日，ある社長のお話を聞くことがありました。いい言葉で，非常に感動しました。「成功するまでやり続けなければならない。途中で諦めるから失敗するんだ」。私はなるほどなと感動しました。

もう一つ，これは先日戸河内中学校の運動会の中で非常に感銘を受けた言葉です。学校のスローガンでもあるのですけれども，「一生懸命がかっこいい」。いい言葉だなと，私はすご

く感動しました。過疎地だからといって諦めるのではなくて，一生懸命にやり続ければ，おのずと結果はついてくると信じて，温かく迎えてくださった安芸太田町町民の皆様，役場の皆様に恩返しするべく，今後も引き続き一生懸命この任務に当たっていきたいと思っております。以上でございます。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

（知　事）
奥田さん，ありがとうございました。大阪からいらっしゃったということで，生まれも育ちも大阪なのですか。

（奥　田）
はい，そのとおりです。

（知　事）
では，これまで大阪からあまり出たことはなかったんですか。

（奥　田）
いえ，北海道に行ってみたり。

（知　事）
住むという意味ですけれども。

（奥　田）
高校を卒業してすぐ，１年，北海道の牧場で働いていました。

（知　事）
なるほど。北海道で１年，ほかにもいろいろ行かれたことがあるのですか。

（奥　田）
その後はずっと大阪にいました。

（知　事）
そうですか。というのは，大阪で生まれ育って，お仕事も大阪でされていて，突然，ある意味では全くご縁もない広島の安芸太田に来られる決断というか，どうしてその決断ができたのかと思いまして，その辺はどういう気持ちで決断されたのですか。

（奥　田）

ちょっと暗い話になってしまうのですけれども，私の父親が６年前に交通事故に遭い，一命はとりとめたのですけれども，高次脳機能障害といって脳に障害が残りました。それを見て，自分もいつどうなるか分からないということをふと思い，約 10 年勤めていた会社をすぱっと辞めて，自分の勉強のためにあちこち見て回ろうと思って，半年ほど海外を放浪してみたり，東北の震災のボランティアに行ってみたり，あれを機に，当たり前のように生きているけれども，やっぱり生きているというのはすごいことなんだなと。生かされているんだから，やっぱり悔いのない人生を送りたい。というのと，何か災害があったときに，食べ物をつくっている人間は強いなと思ったんです。お金が幾らあっても，物を売ってくれなかったらただの紙切れなんですよ。やっぱり物づくり，食べ物をつくっている人は強い。それを考えた上で，田舎に住みたいと思って，それも各地を探したんですけれども，たまたまこういうお仕事のご縁がありまして，こちらでいう因縁があったんですね。ご縁をいただき，この安芸太田町にやって参りました。

（知　事）

先ほど安芸太田の中でも３つの集落のご紹介がありましたけれども，地域的にも離れているし，高齢化も非常に進んでいるということで大変なところですけれども，今はたくさん宝があるとおっしゃいましたが，実際に到着してみて，どんなふうに最初は感じられましたか。その後，またいろいろ変わっていって，今は宝というふうに思われていると思うのですけれども，どうですか。

（奥　田）

正直，面接に来て，それまでほとんど広島とご縁がなかったんです。小学校の修学旅行でたまたま大久野島に行ったぐらいで，ほとんど広島とはご縁がなかった。大阪から道路をずっと上っていくに連れて，えらい山の中だなと。えらいところに来てしまったというのが正直な第一印象です。

ただ，来てみて非常に思ったのは，皆さん，いい意味でも悪い意味でも欲がないんです。それはすごくいいところでもあるんです。ただ，商売をするには欲がないと，私は大阪人ですから欲深い人間ですけれども，それが一つです。いい意味でも悪い意味でも欲がない。損得勘定がない。全般的にいい人が多いです。お世辞抜きで。私はこういった性格ですので，知らない人でも，誰とでもしゃべるんです。大概皆さんと話が続きます。１軒１時間ぐらいしゃべっています。そんなところです。

（知　事）

なるほど。ありがとうございます。さっき広島から大変近いというお話をいただいて，確

かに今日も，僕は広島市中区に住んでいますけれども，ここまで来るのにちょうど 45 分ぐらいでした。そういう意味では，東京とか大阪だったら，例えば銀座でもどこでもいいですが，銀座から１時間車で行っても東京ですから変わらないのですけれども，ここは都心から１時間もしたらすばらしい自然がたくさんあって，そして広島でも本当にないこの人情，おもてなしの心というのがあって，欲がないとか，いい人だというのは，本当にいいところですよね。そこにいると，それが宝だとなかなか気づかないかもしれないのですけれども，こうやって奥田さんが大阪から来てくださって，それに気づいて，それにまた磨きをかけようとしていらっしゃるということで，まちおこしには，よく「よそ者・若者・ばか者が必要だ」と言われるのですけれども，これは別の言い方をすると，３人寄れば文殊の知恵ということなんです。同じ頭の人が幾ら集まっても，なかなかいい知恵は浮かばないけれども，違う視点を持った多様な人がいると，いい知恵が浮かぶ。それが，その「よそ者・若者・ばか者」なんですけれども，奥田さん１人で，さっきの「ばか者」は余計かもしれませんけれども，そういう外から来られた目を大事にして，この農家レストランというのも，本当に大丈夫かと思われるかもしれないけれども，その宝が見える人にとっては，きっと道筋が見えているのではないかと思います。ということで，まだまだ来られたばかりですから，去年の 11 月ですよね。なので，これからの奥田さんの挑戦が楽しみですけれども，それもまた皆さんのサポートによるというか，お互いのサポートというか，奥田さんが地域をサポートして，地域の皆さんが奥田さんをサポートする，それにかかっていると思います。奥田さんに是非とも応援の拍手をお願いしたいと思います。本当にありがとうございました。

（奥　田）

ありがとうございました。（拍手）

事例発表②

（知　事）

続いて，次の発表をお願いしたいと思います。会社員の佐々木小百合さんにお願いいたします。

佐々木さんは，安芸太田町健康運動クラブの一員として，５月５日の 2013 フラワーフェスティバルに出演されました。「安芸太田元気森もり推進隊」として元気な町をＰＲして，「きらめきプラチナ賞」を受賞されたということです。踊りの活動を通じて，世代交流の大切さを実感したそうです。

今日の発表のテーマは，「元気な町づくりは世代交流から～体験を通じて感じたこと～」です。それでは，佐々木さん，よろしくお願いします。

（事例発表者（佐々木））

皆さん，おはようございます。(「おはようございます」の声あり)

ただいまご紹介にあずかりました佐々木小百合です。私は出身が香川県で，瀬戸大橋が開通したちょうど 25 年前に，縁がありましてこちらに嫁いで参りました。現在は加計の竹下建設に勤めて，経理の仕事をしております。

私が所属しております安芸太田町健康運動クラブについて少し説明しますと，町内には 12 の運動グループがあり，会員数は約 200 名。「死ぬまで元気 ぴんぴんころり」を目標に，精力的に運動普及に取り組んでいます。

このたびのフラワーフェスティバルのよさこい参加は，私たちの挑戦の一つでもありました。去年の５月の役員会でフラワーへの参加が決定。その組織として，安芸太田元気森もり推進隊を結成。私はその中のよさこい普及部のメンバーとして，参加する皆さんに踊りを早く覚えてもらい，最終的には 100 人のまとまった踊りに仕上げるという役を任されました。

当初,事務局が考えていた８回の練習回数ではとうてい仕上げられないと思いましたので,急遽追加の練習日を４日増やしたり，踊る隊列を考えるのに必要なデータ集めをしたり，また，本番の化粧を考えるために地元の化粧品屋さんや神楽団にお邪魔してメイクの仕方を教わったりもしました。

今回参加された皆さんの平均年齢は 67 歳，決して若いとは言えません。高齢者の方は，音楽にあわせて，それも神楽の独特のテンポについていくのは本当に大変だったと思います。

練習が本格的に始まった３月からは，会社も練習日には 15 分早く上がらせてもらい，練習がない日でも，振り付けをしていただいた健康運動指導士の先生方とフラワー用の踊りにするために動きを考え直したり，次の練習方法を話し合ったりしてきました。

気がつけば，誰に言われるでもなく，いつのまにか私が踊りのリーダーになっていました。

いよいよ５月５日の本番を迎えました。総勢 151 人が市内へ。参加者全員，緊張感と同時に，期待感に胸躍らせて臨みました。

練習ではなかなか揃わなかった縦と横の列が，ごらんのように本番ではばっちり決まりました。

80 歳を超える高齢者の方たちが「冥途の土産ができたよ。本当にありがとう。」と，とても喜ばれていたのが自分のことのようにうれしかったですし,参加者の皆さんからは,「小百合さん，あんたもずっと大変じゃったね。お疲れさん。」と逆にねぎらいの言葉をかけていただき，感激もひとしおの１日でした。

翌日の新聞で私たちの姿が写真で大きく掲載され，さらに「きらめきプラチナ賞」を受賞したことを知り，二重の喜びに沸きました。この賞は，年配の方々が元気に笑顔で参加されている団体に贈られる賞だそうです。高齢でも元気で健康な町をアピールするには,フラワーはもってこいの舞台だったと言えます。

私は，今まで 40 代，50 代世代は，まだ仕事や子育てで忙しい身だから，何かを中心になっ

てやるというのはなかなか難しいなあという消極的な考え方でした。しかし，このたびのフラワーの参加を通して，与えられるのを待つ受け身の姿勢では何も進歩がないし，成長もしない。自分からその時間をつくってでも積極的にかかわっていくことで，経験を積まれた上の世代の方々との絆も深まり，世代間の交流にもつながっていくということに改めて気づかされました。

世代が違うから話が合わない。考え方も違う。いえいえ，とんでもない。確かに多少のずれはありますが，一つの目的に向かって全力で取り組み，みんなの思いが一つになったときには，そんな世代の違いなんて全く関係ありませんでした。

今後も町の元気づくり，健康づくり，さらには地域づくりに貢献できるよう，微力ながらお手伝いしていきたいと思っております。

それでは，ここで運動クラブのメンバーと一緒に，フラワーで躍った神楽よさこいをご披露したいと思います。（拍手）

【よさこいダンス披露】

（佐々木）

ごらんのように結構な運動量です。皆さん，一緒に躍りたくなりませんでしたか。私は，この神楽よさこいが，将来的には地域の子どもたちまで広まって，安芸太田の健康づくりの基盤になればいいなと考えています。以上で私の発表を終わります。どうもありがとうございました。（拍手）

（知　事）

佐々木さん，ありがとうございました。２週連続で躍らされまして，先週初めて躍らされたのですけれども，今週も躍らされるとは思いませんでした。

（佐々木）

ありがとうございました。

（知　事）

佐々木さんも香川からご結婚でこちらに来られたということで。

（佐々木）

はい，そうです。

（知　事）

香川のふるさととこの安芸太田は，どっちが田舎ですか。

（佐々木）
こちらです。（拍手）

（知　事）
こちらにご結婚で来られて，お仕事もするようになって，40 代，50 代というのは，そうは言っても地域の活動をするのは難しいなというふうに思われていたということですけれども，今回やられて，やっぱり受け身では進歩がないと思われたのか，受け身では進歩がないなと思われて，今回この役を引き受けられたのか，それはどういう感じでしょうか。

（佐々木）
どっちかというと，今回だけではなくて，去年もちょっとリーダー的なことをさせていただく機会がありまして，そのときからそういった考えが出ていて，大変なのですけれども，でも，やったときには自分が成長したなと思えるし，皆さんともいろいろなことを通じて絆が深まって，私の発表の中にもありましたけれども，世代間の交流が強まってきているなというのを感じましたので，今回のことだけではないです。

（知　事）
そういう形で，普段は，これまではなかなかそういうリーダー役をされていなかったかもしれないけれども，去年そういう役をやられて，二つパターンがあると思うのですけれども，やっぱり何か課題を感じるときに，自分でそれをなんとかしようというふうに思う場合と，周りから何となくやってよという感じで，やっているうちに，このままではいけないと肩を押されて，気がつくとそういうふうにやっている場合。いずれにしても，リーダーって結構めんどくさいですよね。だけど，誰かがやらなければいけなくて，でも，それを誰かが引き受けてやられると，活動に幅が出てくる。誰もやらないと何も動かない。この神楽よさこいも，出演はしたかもしれないけれども，きらめきプラチナ賞を受賞するというところにはいかなかったかもしれないですよね。やると，一生懸命やっちゃったわけですね。

（佐々木）
そうです。結構性格的なものがあったかもしれないです。

（知　事）
会社勤めをされているということですから，特別専門でもないし，地域で昔からの旧家だとか，ひょっとしたら実際はそうなのかもしれませんけれども，でも，そういうことをやる機会はいろいろなところにあると思うんです。できるときにその役割が与えられたりとか，誰かやらなければいけないと思ったときに，恐らく誰でもできるかもしれないけれども，そ

れを実際にやると，こういうふうに大きな広がりが生まれてくるということだと思います。普段は，子育てもされているんですよね。

（佐々木）

はい。

（知　事）

子育てとか，会社のことで忙しかったけれども，こうやって新しく地域のことに取り組んで一生懸命やると，それが結果に結びつく。で，広がりが生まれて，世代の違いも関係ないと思うようになってくる。また参加した皆さんもそういうふうに思われたと思います。やっぱり，やってみないと分からないということですね。さっきの奥田さんの話もそうですね。

今年頑張っていただいて，この安芸太田元気森もり推進隊をここまで引っ張っていただいた佐々木さん，本当に地域にはたくさんのリーダーの方がいらっしゃると思います。その１人として，佐々木さんにもう一度大きな拍手をお願いできればと思います。どうもありがとうございました。（拍手）

佐々木さんのお言葉の中で，受け身でいては進歩がないと。本当に一歩前に出る。一歩でも進歩だと思うんです。でも，出てみたら，もっと違う世界が広がってきて，新たな境地が生まれるのではないかと，そんな感じがいたしました。

事例発表③

（知　事）

次は高校生の発表になります。加計高校３年生の島津亮太くんです。

島津くんのご紹介をさせていただきますと，島津くんはバレーボール部に所属して，部のみんなで「しわいマラソン」あるいは「もみじウォーク」などの町内イベントに運営ボランティアとして参加をして，イベントを盛り上げてくれているということです。

また，ひろしま菓子博で，「加計高きのこパウンドケーキ」商品化プロジェクトにも取り組まれて，「スイーツひろしまコンテスト 2013」では，審査員特別賞を受賞するということで，町の活性化のため，ご自身でできることに取り組んでおられるということです。

今日の発表のテーマは，「町の活性化のために地元高校生としてできること」です。それでは，島津くん，よろしくお願いします。

（事例発表者（島津））

おはようございます。（「おはようございます」の声あり）先ほどは元気のいい踊りで，私

たちも元気をもらいました。ありがとうございました。(拍手)

安芸太田町唯一の高校である加計高校３年生の島津亮太です。私は，加計高校男子バレー部の部長をしています。加計高校男子バレー部は７年前に設立して，部員が少ないために試合に出られない時期もあり，女子と協力しながら練習を続けてきましたが，昨年度の春の高校バレーでは，広島県 16 位という，バレー部始まって以来の奇跡的好成績を収めることができました。(拍手) ありがとうございます。これは，コーチの指導のもと，とても充実した練習を毎日夜遅くまで行っていることや，広島大学で行われる合同合宿に毎回参加し，大学生の方からも指導を受けているおかげです。

また，バレー部は，部活動だけでなく，勉強やボランティア活動にも力を入れています。安芸太田町から支援を受けている加計高校を育てる会からは，公営塾のほか，部活動の外部コーチや，合宿への補助，総合的な学習の時間への補助などもしていただいています。私たちはそういった支援に対する感謝をあらわしたいということと，広島県で最も人口が少なく，中国地方で最も人口減少率が高いと言われる安芸太田町の活性化のために貢献したいという気持ちを強く持っています。

そこで，バレー部を中心として，安芸太田町のイベントではボランティアスタッフとして活動しています。「しわいマラソン」という５時半スタート，制限時間 13 時間のマラソン大会では，毎年エイドステーションやゴール地点で活躍しています。昨年はリレーの部の試走にも出場し，88 ㎞を 20 人の高校生で走ることで大会を盛り上げ，テレビでも紹介していただきました。

また「もみじウォーク」というウオーキング大会にも毎年参加し，受付，本部，コース誘導などで活躍しています。そして，健康促進ということだけでなく，地域経済への波及効果など，町の活性化を目的として開催していることを私たちも強く実感できています。

先月は，観光協会からの依頼で「元気市」という祭りでの司会を務め，ステージイベントや出店者の紹介，じゃんけん大会の進行を行いました。応援に来てくれた加計高生と一緒に盛り上げることができたと思います。

そして，特にこれから取り組んでいこうと考えているのは，ひろしま菓子博で販売していただいた加計高発「きのこパウンドケーキ」の商品化プロジェクトの活動です。これまで私たちは総合的な学習の時間の菌類研究講座に栽培したきのこなどを安芸太田町社会福祉協議会に提供し，高齢者への配食サービス，まごころ弁当の食材としても使っていただきました。

そして，昨年冬，もっと喜んでもらえるものはないかと考えて，専門コースの先輩がつくったのが「きのこパウンドケーキ」でした。こちらが「きのこパウンドケーキ」です。町内の高齢者宅へ届けていただきましたが，調理ボランティアの方にも好評で，若者にしか思いつかない発想で，とてもおいしいとほめていただきました。

また，加計高校では姉妹校提携の調印式の昼食会でも，この「きのこパウンドケーキ」をつくって，参加者にも喜んでいただきました。

このレシピを「スイーツひろしまコンテスト」に応募したところ，501 点の応募作品の中から一次審査の書類審査を通過し，二次審査の試食，デザイン審査に進むことになり，専門コースの先輩と一緒に私たちのプロジェクトメンバーも参加しました。その結果，審査員特別賞を受けることとなり，さらに，入賞作品の中から６点が商品化され，ひろしま菓子博で限定販売されました。このコンテストは，広島県の豊かな自然の中で地元農家が栽培した農産物を材料として使い，その特徴を生かしたレシピというのが条件でした。

私たちは，安芸太田町の地域産業であるきのこの栽培や活用について学んでいます。このパウンドケーキはこども園にもプレゼントし，地域とのつながりをさらに深めていきたいと思っています。

今後，地元企業などと連携させていただくことで，この「きのこパウンドケーキ」の商品開発が実現すれば，まちの活性化に貢献できると考え，挑戦していきたいと思っています。

そして，私はこの経験を生かし，大学に進学し，経営学を学びたいと思っています。以上で私の発表を終わります。ありがとうございました。(拍手)

（知　事）

島津くん，ありがとうございました。バレー部は人数が少ない中で，県で 16 位，これはいわゆる県大会に出て 16 位になったということですね。

（島　津）

はい。

（知　事）

前は女子と練習をしたり，自分たちだけじゃなくて大学生と一緒に練習したりということで頑張られたということですね。

今のきのこパウンドケーキ，実は菓子博の中で商品化されたと今ご紹介にあったように，いっぱい応募はあったんですけれども，実現したのはほんのちょっとだけでしたね。６作品でしたか，８作品でしたか。

（島　津）

６作品です。

（知　事）

すごいことだと思います。何十とか，何百というレシピの応募はあったと思うのですけれども，そういう意味では，この「きのこ」というまさに地域の宝，ここに来るとその辺に生えているのですけれども，育てているかもしれませんけれども，それを本当にうまく使った

意外な味ではないかと思うのですが，こういう形でここまでされた。

また，さらにいろいろなイベントにも出ておられるんですね。司会もされるのですか。

（島　津）

はい。

（知　事）

それは，島津くんが司会を請け負ったということですか。

（島　津）

はい。

（知　事）

そういう意味では，この加計高校の存在感というのはこの地域では大きいのではないですか。皆さんもそう感じられませんか。（拍手）ありがとうございます。都会に行くと，なかなか，一つの高校でそんなに地域で存在感を発揮するというのはないし，そもそも，高校生が地域のために，地域の活性化のために自分たちで何かやろうと思わないですから，みんなはすに構えて，おっちゃんたち何かやっとるのというのが高校生で，それはそれで，そういうのも大人になる段階でいるのですけれども，でも，ここではそうやって地域のことを考えてくれている高校生がいる。しかも，すごくしっかりしていますね。僕よりよっぽど司会がうまいのではないかと感じます。（拍手）こういう高校生，若い人が，島津くんは代表ですけれども，きっと加計高校にはたくさんいるのではないかと思います。こういう若い人がいると，安芸太田も，人口が少なくて大変だ，大変だと言われますけれども，でも，人数が少なくても県で 16 位になれる。やろうと思えば，できる。それを実践している。すごいですね。高校生ですよ。高校生がやっている。こういう若者がいたら，本当に安芸太田も大丈夫だと思います。これからも，大学に行って勉強して，ひょっとすると町を出てほかのところで活躍するかもしれないけれども，きっとこれだけ町のことを愛していますから，何らかの形できっとまた安芸太田に還元してくれるのではないかと思います。

（島　津）

ちょっといいですか。こちらから質問してもいいですか。

（知　事）

はい。

（島　津）
すみません。知事は，パウンドケーキを食べたことはありますか。

（知　事）
パウンドケーキはあるけど。

（島　津）
この「きのこパウンドケーキ」を食べたことはありますか。

（知　事）
きのこパウンドケーキはまだいただいていないですね。

（島　津）
ないですか。今日は持ってきているので。（拍手）

（知　事）
いただきます。ありがとうございます。

（島　津）
食べてください。（拍手）

（知　事）
今，食べたほうがいいですか。

（島　津）
今，食べて，感想を。

（知　事）
ちょっと待ってください。
テープの手づくり感がすごくいいです。いただきます。

【試　　食】

（知　事）
これは意外というか，きのこだから，普段に食べるパウンドケーキと全然味が違うのかと

想像していたら，ちゃんとパウンドケーキですね。（拍手）おいしいです。言われないと，きのこだと，なかなか分からないです。ちょっと固いのは，栗ですか。

（島　津）

はい。栗です。

（知　事）

すごく食感がよくて，バターもたっぷり使ってあって，香りもよく，すごくおいしいです。これは，グッドです。

（島　津）

ありがとうございます。（拍手）

（知　事）

ありがとうございました。こうやって積極的な島津くん，広島の安芸太田の将来もこういう若者がいれば安心ということで，島津くんにまた激励の拍手をお願いできればと思います。どうもありがとうございました。（拍手）

残りのパウンドケーキは，次の発表の間にいただきます。

事例発表④

（知　事）

それでは，最後の事例発表になります。戸河内中学３年生の横畠竜くんにお願いしたいと思います。

横畠くんをご紹介させていただきますと，横畠くんのお家は，広島県指定の伝統的工芸品「戸河内刳物」の「安芸の木杓子」を製造されていらっしゃいます。ご自身も将来は家業を継いで職人になりたいという夢を持っておられます。

現在は立派な職人となるためにも高校に進学して，幅広い知識を身に付け，いろいろな経験を積みたいと日々勉強に励まれているということです。

今日の発表のテーマは，「将来の夢」です。それでは，よろしくお願いします。（拍手）

（事例発表者（横畠））

「将来の夢」

戸河内中学校３年　横畠竜

よろしくお願いします。(拍手)

僕は勉強が苦手です。今日はそんな僕が今，考えていることを話します。

僕の家は，広島県指定伝統的工芸品「戸河内刳物」の安芸の木杓子横畠工芸です。これがうちでつくっている木杓子です。(拍手)

僕のじいちゃん，横畠文夫は，宮島細工を源流とする伝統的工芸品をつくる横畠工芸の２代目です。僕のひいじいちゃん，横畠佐六を師匠として，15 歳でこの道に入りました。戦後間もない昭和 25 年のことです。今とは違い，木の価値が高かった時代，じいちゃんたちは山に木を植え，山を育てながら，技術を学び，宮島に杓子を送っていました。はじめは 10 種類ぐらいだった商品も，今では 200 種類以上になっています。

この道一筋 60 年以上のじいちゃんを襲ったショッキングな出来事が起こったのは,去年の３月のことです。作業場が火事で全焼してしまったのです。燃える作業場を見て，必死に道具を取りに行こうとするじいちゃん，それを「危ないけえ，近寄りんさんな」と言ってとめているばあちゃん。僕は突然の出来事に対するショックで何もできず，ただ立ちつくすばかりでした。並べてあった数々の商品はもちろん，職人の命とも言えるノミや柳刀などの道具もすべて焼けてしまいました。消防の方を見送った後，戸をしめようとするじいちゃんの手が震えていたのをはっきりと覚えています。

数日後のことだったと思います。僕はじいちゃんと一緒に焼け跡に入り，何か道具が残っていないかと探しました。じいちゃんの手になじんでいる道具は世界に二つとないからです。もちろん先代から受け継いだものもあります。形ある見本を見つけては，さび止めのために油を付けていました。しかし，結局使える状態の道具は全くありませんでした。

じいちゃんのショックは大きかったようで，一時は，先代から受け継いだ横畠工芸はもう終わりだと思ったそうです。僕のじいちゃんに対する思いを一言であらわすなら「あこがれ」という言葉になります。お客さんにいろいろなお話をしながら,杓子をつくっていくじいちゃんの姿は最高にかっこいいです。もし，じいちゃんがこの仕事を辞めてしまうと，もうその姿を見ることができなくなります。そう思うと，僕はとても悲しくなりました。

そんな中，じいちゃんを支えたのは，全国の職人仲間や地域の皆さんでした。頑張れや。応援しとるで。そんな声をたくさんかけてもらい，じいちゃんは再スタートを切る決断をしました。たくさんの方々に助けていただいたおかげで，６月に再び作業場ができました。新しい作業場を見て，僕はとてもうれしくなりました。じいちゃんが杓子をつくっているあのかっこいい姿が目に浮かんできたからです。今，じいちゃんは地域の皆さんへの御返しとして体験教室を始めています。

僕は，じいちゃんがこの仕事を 15 歳から始めたことを知ったので，自分も 15 歳で家業を継ごうと考えていました。あこがれのじいちゃんと一緒に仕事をするのが自分の夢だと思い込んでしまいました。しかし，よく考えてみると，理由はそれだけではありませんでした。去年の 12 月ごろ，担任の岡崎先生が僕にこう話されました。竜くんは，最近，宿題をやっと

らんことがあるが，家業を継ぐけえ，勉強はせんでもええと思って投げ出しとるんじゃないか。僕はズバリ言われてしまったと思いました。確かにあのころの自分はめんどうな宿題などを後回しにして，結局やらずじまいにしていました。先生は，家に帰って，じいちゃんや父ちゃんの話を聞いてみんさい。今，自分が何をせにゃいけんのか分かると思うでと言われました。僕は家で父ちゃんに話を聞いてみました。確かにじいちゃんは15歳から仕事を始めたのですが，仕事をしながら，夜は加計高校の定時制で勉強していたのだと初めて知りました。じいちゃんは勉強から逃げて，自分の好きな職人の道に入ったわけではなかったのです。それどころか，仕事と勉強を両立させていたのです。それを聞いて，勉強を放り投げていた自分が情けなくなりました。

僕の父ちゃんは横畠工芸の３代目です。その父ちゃんも，まっすぐこの道に入ったわけではありません。もともとサッシをつくる会社に勤めていたのですが，結婚を機に，杓子をつくるじいちゃんに出会い，その姿に感動して，伝統を受け継ぐ決心をしたそうです。そんな父ちゃんは，僕にこう話してくれました。いきなり家業を継がんでもええんじゃないか。職人になるにしても，社会に出て，いろいろな経験をして，たくさんの人と出会うことが必ず役に立つと思うで。僕は家族や先生との話を通して，高校に行って新しいことを学び，出会いを大切にしていこうと思うようになりました。

僕は今，剣道部に入っています。稽古はとても厳しく，つらいです。しかし，一瞬にかける集中力が磨かれます。一本とった後の達成感，仲間との団結，思いやりの心など，多くのことを学んでいます。これらのことは未体験だった剣道に挑戦し，頑張ってきたからこそ学べたことです。

しかし，人として学ぶべきことはまだまだたくさんあると思います。新しい出会いや経験を求めて，僕は高校に進学します。じいちゃんや父ちゃんのような立派な職人になるためです。父ちゃんは，芸術大学に進むのもええんじゃないかと言ってくれています。今からじっくり考えていきたいです。

最後に，皆さんに一つ見ていただきたいものがあります。これは，火事で使えなくなったじいちゃんの道具の一つ，柳刀です。僕はじいちゃんに「使えんようになったのに，何で大事にとっとるん」と聞いてみました。すると，じいちゃんは「あんたらが新しく道具をつくろうと思ったら，形ある見本がいるじゃろうが」と話してくれました。父ちゃんや僕にしっかりと伝統を受け継いでほしいというじいちゃんの願いが伝わってきました。じいちゃん，ありがとう。僕は頑張ります。じいちゃん，父ちゃん，僕の３人で並んで杓子をつくる日を夢みながら。

ご清聴ありがとうございました。（拍手）

（知　事）

ありがとうございました。横畠家，本当に大変な火事を乗り越えて，またこの横畠くんに

夢が引き継がれていく。それができるようになったことはすばらしいことだと思います。はたから見ると，すばらしいなと思うのですけれども，実際は大変だったでしょうね。横畠くんもすごく落ち込みましたか，その火事のときには。大変だったよね。

（横　畠）

大変でした。

（知　事）

話にはいいことがいっぱい詰まっていたんですけれども，今どき，おじいちゃんにあこがれるというのは，なかなかないというか，そのあこがれさせるおじいちゃんもすばらしいと思います。今日，おじいちゃんは来ていらっしゃいますか。いらっしゃっていますね。（拍手）ありがとうございます。

その背中を見せて，子どもたちに夢を与えていくのはすばらしいことだと思います。また，横畠くん自身も，人として学ぶべきことはたくさんある。これはなかなか中学生では言えない言葉ではないかと思います。しっかりと将来を見据えて，これからの自分のいろいろな可能性もあるということも考えながら，でも，いつかは３人で一緒にこの戸河内刳物，杓子を彫りたいという夢を持っておられる。これからもいろいろなことをやるかもしれませんが，それは寄り道ではなくて，僕は横畠くんにとっての夢に向かってのまっすぐな道ではないかと思います。これからこの広島県の伝統を，そして，安芸太田の伝統を守ってくれるという横畠くん，本当にありがとうございました。もう一度大きな激励の拍手をお願いいたします。ありがとうございます。（拍手）

（司　会）

ありがとうございました。以上で予定の事例発表は終了となります。皆さん，すばらしい発表を本当にありがとうございました。

閉　　会

（司　会）

それでは，ここで湯﨑知事に本日のまとめをお願いいたします。

（知　事）

ありがとうございました。今日は４名の方に発表いただきましたけれども，大阪から来られた奥田さん，あるいはよさこいを引っ張っていただいた佐々木さん，お二人は大人です。

あとは高校生，中学生と発表をいただきましたけれども，本当にそれぞれの，奥田さんはまさにまちおこしのために来てくれた人ですけれども，佐々木さんや高校生，中学生はそういうことではないのですけれども，でも，自分たちの持ち分の中でできることを実際にやっておられる。よさこいも，誰かがやってくれたらいいのになというのがあると思うのですけれども，それを実際に誰かがやる。誰かやる人がいる。それをやることによって，世の中が変わっていく。バレー部も，人数は少ないし，しようがないと諦めたら，県内に高校は百とか百何十とかありますから下のほうかもしれないけれども，県内16位です。僕も高校のときにバスケットをやっていましたけれども，県大会に出ても最初に負けてしまうぐらいで，本当に16位というのは大変なことです。弱い条件だからといって諦めない。横畠くんのように，今の伝統工芸をめぐる環境というのは，必ずしも恵まれたものではありませんけれども，でも，そこに価値をしっかり見出す目を持っている。そこに至るためにどうしようかと，中学生なりに考えている。そういう学生なら学生，また働くサラリーマンをしながら，サラリーマンではなくて，サラリーウーマンをやりながらリーダーになってくれる佐々木さん，もちろん，このまちおこしのために広島に来てくれて，そこで何ができるか，頑張ってくれている奥田さん，それぞれの立場で精一杯やっていただいています。

そういう人が増えたら，別にまちおこしのためにまちおこしをするのではなくて，例えば高校の学校がよりよくなるために地域がちょっと支えてあげる。あるいはその地域の中で何か会をやってみるとか，本当にいろいろなことができるのではないかと思います。そういうふうにかかわられる方が増えれば増えるほど，この地域は本当によくなっていくのではないかと思います。思うだけではなくて，行動してみる。あるいは，一生懸命やっている人を放っておかないというだけでも，僕は大きな違いが生まれるのではないかと思います。それを体験してくれて，今日，皆さんと共有していただいた4名の皆さん，本当にすばらしい発表だったと思います。もう一度大きな拍手をお願いしたいと思います。（拍手）

ありがとうございました。今日のこの会により，今後の皆様の様々な挑戦の輪が広がることを心からお祈り申し上げまして，この会を締めさせていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。（拍手）

（司　会）

以上をもちまして「湯﨑英彦の地域の宝チャレンジトーク」を閉会いたします。ご来場いただきました皆様，どうもありがとうございました。

なお，ご来場時にお渡ししたアンケートと地域の宝ネットワークの申込書を出口で回収いたしますので，よろしくお願いいたします。

また，地域の宝ネットワークにおいては，フェイスブックによる情報交換を行っておりますので，是非ご参加ください。

それから，安芸太田町からのご連絡です。本日午後の森林セラピー基地グランドオープニ

ングイベントへの会場へのシャトルバスが 11 時 30 分に 1 階正面玄関前から出発するということですので，皆様是非お誘い合わせの上，森林セラピーオープニングイベントにご参加いただきますようお願いいたします。

本日はご参加をいただき誠にありがとうございました。どうかお気をつけてお帰りください。（拍手）